

「シリーズ平和教育学」 オンライン講座

(2025年 1月)

- 元京都教育大学教員 村上登司文
- 【講座の概要】
- 世界各地で紛争や戦争が続き、情報の不確実性が増すとき、平和教育の役割を学術的に明らかにすることが必要となっています。一方、戦争体験者が不在化する中で、平和教育の実践方法を若い教員に継承することも必要です。2023年7月からシリーズで開講している「平和教育学」オンライン講座について、2025年1月に第4回の講座を開講します。なお、第3回の講座は2024年7月に実施しました。
- 1月の実施テーマ
- 1/17 ①平和教育の今日的課題
- 1/24 ②平和教育の授業づくり
- 1/31 ③研究報告会方式のセミナー（2名テーマ通知済み、2名保留）
- 【受講対象者】
- 平和教育に関心がある学生、院生、学校教員、元教員、社会人など
- 【講座の受講方法】Zoomによるオンライン講座（約1時間）を行います。①と②は前半の30分は村上がプレゼンし、後半の30分は受講者との交流の予定です。

平和教育の今日的課題

○「内容紹介記事」から

- (1) 今の平和問題を、子どもたちにどのように教えれば良いのでしょうか。
- (2) 日本の平和教育においては、**80年前**の沖縄戦や広島・長崎で原爆などの戦争経験について話を聞くことが主流になってきました。
- (3) しかし、戦争を語れる方も高齢化し不在化が進んでいます。
- (4) 他方で、ウクライナ戦争やイスラエル・ガザ戦争は現在も進行しています。
- (5) 古きに学び、新しい状況に対応する平和教育実践をつくらなければならなりません。
- (6) 昔の日本の戦争を、今起こっている平和問題に、平和学習でどう繋ぐのか探ります。

(1) 今の平和問題を、子どもたちにどのように教えるか

- 平和問題を子どもたちに教えるには、子どもが平和問題を多面的・多角的に考え、批判的に判断できる思考力を育てることが大切である。また、平和な社会の実現に貢献する力を育てることも目標となる。
- 平和問題を**教える方法**としては、次のようなものがある。
- 児童文学作品や絵本、詩、体験記などの**読み物を通して**平和について**考える**
 - 「戦争に伴う環境問題や人権」について考える・・・[戦争のアウトプット]
 - 「世界平和」についての考察を行う・・・[世界の平和]
 - 「人間の生命の尊厳を否定する一切の暴力」・・・[身近な平和]に反対する考えを育てる
- 平和な社会形成のために**表現し発信する力**を育てる
- また、平和教育では、×「強制的、威圧的、抑圧的などの権威主義的な教育方法」を避け、⇒ ◎子ども一人ひとりの「個性や感性と人権を尊重した教育方法」を用いることが大切である。

(2) 80年前の沖縄戦や原爆被爆などの戦争経験の継承が主流

- 日本の平和教育において、沖縄戦や広島・長崎での原爆投下などの戦争経験について話を聞くことが主流になってきた。これは、次世代に戦争の悲惨さや平和の大切さを伝えるための取り組みの一環である。
- 従来の平和教育、伝統的平和教育、戦争被害中心の平和教育⇒□
- 特に、原爆や沖縄戦の被害を受けた地域の**体験談や証言**が、教育の中で重要な役割を果たしている。
- 体験継承の教育を通じて、若い世代が平和の大切さを理解し、未来に向けた行動を考えるきっかけになることを目指しています。

(3) 戦争を語れる人が高齢化し不在化が進行

- 日本では、戦争や戦時中の体験を語る方々が高齢化し、不在化している現状が見られる。
- 特に第二次世界大戦や太平洋戦争の経験者は、年々その数を減らしている。これにより、戦争の歴史や体験を直接伝える機会が減少しており、次世代への記憶の継承が課題となっている。
- 記憶の継承に、多様な取り組みが行われている。
- 例えば、戦争体験を記録したインタビューやドキュメンタリーの作成、戦争博物館や展示会の開催などが挙げられる。これにより、戦争の歴史や体験を後世に伝える努力が続けられている。

(4) 現在もウクライナ戦争やイスラエル・ガザ戦争が進行

- ウクライナ戦争については、ロシアとウクライナの戦闘が続いており、特にウクライナのドネツク州での戦闘が激化している。ロシア軍はドネツク州の完全占領を目指しているが、ウクライナ軍の抵抗により進展が遅れている。
- ロシアのクルスク州でも戦闘が続いており、北朝鮮軍の参戦が報告されている。
- イスラエル・ガザ戦争については、イスラエルとハマスの戦闘が続いており、ガザ地区では多くの民間人が犠牲になっている。
- イスラエル軍の攻撃により、ガザの医療体制が崩壊寸前に追い込まれているとの報告もある。また、停戦交渉が進行中であり、バイデン大統領の任期満了までに合意が可能とされていた。

(5) 古きに学び、新しい状況に対応する平和教育実践

- 情報化に対応する平和教育
- **メディアリテラシー**の強化：子どもたちが正確な情報と虚偽の情報を区別する方法を学ぶために、メディアリテラシー教育を導入している。（例えば、ニュース記事の分析や、情報源の信頼性を判断するスキルを教えることが重要である。）
- **オンラインでの対話と協力**：インターネットを利用して、異なる文化や背景を持つ人々との対話や協力の機会を提供する。これにより、国際的な視野を広げ、相互理解を深めることができる。
- **デジタルツールの活用**：デジタルツールを使って平和の価値や重要性を学ぶ教材を作成し、子どもたちに提供する。（例えば、インタラクティブな学習アプリや、オンラインで利用できる平和教育プログラムを活用することが考えられる。）
- **情報の共有と議論**：オンラインフォーラムやソーシャルメディアを活用して、平和に関する情報や意見を共有し、議論する場を設ける。これにより、子どもたちが多様な視点を持ち、批判的思考を養うことができる。

(6) 昔の日本の戦争を、今起こっている平和問題に繋ぐ

- **教育の役割**：戦争の教訓を次世代に伝えることは、平和を維持するために重要です。平和教育を通じて、子どもたちが歴史の教訓を学び、平和の価値を理解することが求められる。
- **悲惨な結果の認識**：戦争がもたらす悲惨な結果、特に一般市民への影響を理解することは、戦争の再発を防ぐために重要である。広島や長崎の原爆投下のような経験は、核兵器の使用の恐怖とその破壊力を示す。
- **人権の尊重**：戦時中の人権侵害を反省し、平和な社会を築くためには全ての人々の人権を尊重することが重要である。（例えば、戦時中の強制労働や捕虜の虐待などの教訓は、現代の人権問題を解決するための基盤となる。）
- **外交の重要性**：戦争を避けるためには、対話と外交が不可欠です。戦前の国際関係の失敗から学び、現在の国際紛争を平和的に解決するための努力が求められる。
- **国際協力の必要性**：国際社会が協力して平和を維持するためには、国際連合（国連）などの国際機関の役割が重要である。（戦後の復興支援や平和維持活動は、国際協力の具体例として挙げられる。）

7-(1) 多岐にわたる平和教育の課題

- **1. 現代的な紛争への対応の遅れ:** テロや内戦、サイバー攻撃など、従来の国家間の戦争とは異なる形態の紛争が増加している。これらの現代的な紛争を教室でどのように扱い、子どもたちに理解させていくかという方法論が十分に確立されていない。
- **2. 戦争の実相の**伝承の困難さ**:** 戦争体験者の高齢化が進み、直接体験を語れる人が少なくなっています。そのため、戦争の実相をどのように後世に伝えていくかが課題となっている。教える側も戦争の実相を十分に知らない場合がある。
- **3. 子どもたちの無力感への対応:** 核軍縮、米中対立、気候危機、環境破壊、グローバル化など、子どもたちが直面する問題は非常に大きく、無力感を抱きやすい状況。
- **4. 「政治的意見の対立がある題材」を扱っているという偏向批判:** 過去の平和教育では、特定の立場や主義主張に基づいて進められたという偏向批判があった。

(7)-2 平和教育の多様性

○戦後 80 年目：継承と伝承・・・体験者の不在化

- ・ 戦争体験第 1 世代からの継承→第 3 ・ 第 4 世代の自主性
- ・ 受動的（テンプル）か能動的（フォーラム）か：学校現場は主体的学習へ

○平和の題材

- ・ ポジティブ・ピース（積極的平和）あるいはネガティブ・ピース（消極的平和）、平和問題の現状は複合的・重層的

○平和形成・構築の方法論 包括的方法か個別的方法か

- ・ 平和を目ざしている人々の活動全体の予定調和（個人は微力ではあるが無力ではない）

○平和教育を支えていた戦後教育学の低迷化

- ・ 平和教育を支えた左翼思想、人権・平和の理念
- ・ 平和教育への学術的アプローチとは

参考文献・資料

- 神代 健彦編 2021『民主主義の育てかた：現代の理論としての戦後教育学』かもがわ出版。
- 新谷和幸他 2024、「社会科平和学習における安全保障研究の知見を生かした学習過程モデルの構築－「安全保障のジレンマ」を活用した授業の分析・検討を踏まえ－」『九州地区国立大学教育系・文系研究論文集』11(1), No.1。
- 田中孝彦、田中昌弥他 2022『戦後教育学の再検討 下:教養・平和・未来』東京大学出版会。
- 名嶋義直、神田靖子編 2020、『右翼ポピュリズムに抗する市民性教育 ドイツの政治教育に学ぶ』明石書店。
- 野島大輔 2024、『高校地歴・公民科 国際平和を探究するカリキュラム』法律文化社。
- 広田照幸 2020「結論に代えて」『歴史としての日教組 下』名古屋大学出版会、pp.290-297。
- 古梶隆人 2023、「戦後平和教育の展開に関する言説と沖縄の若い世代による平和教育」『平和社会学研究』創刊号、pp.180-208。
- 前田輪音 2023、「「平和教育」における「理論と実践の往還」－日本平和学会の強みを活かして」『平和研究』60 (0)、pp.201-207。
- 村上登司文 2023、「2000年代以降の平和教育研究の動向と成果」『広島平和科学』44、pp.1-24。
- 矢口祐人 2023、「歴史博物館におけるAIと歴史証言」『AIから読み解く社会－権力化する最新技術』東京大学出版会。
- 「戦争デジタル情報for peace」のHP:
<https://peace-education.info/murakami/DigitalInfomation/24digital.html>